



マレーシア工科大学との交流会

-秋の研究室旅行へ向けて期待が膨らむ-

D2 鈴木 智香子

去る6月24日、University Technology Malaysia (UTM)のHo教授と学生さんたち約10名がいらっしゃいました。

都市デザイン研究室がどのような調査や活動をしているのか知りたいということだったので、そのリクエストにお応えすべく、当研究室からは6つのプロジェクト(八尾、喜多方、鞆、高山、柏の葉、新宿)について発表(勿論、英語です)。発表に対しては「若者は歴史的建造物の良さを理解し、自ら住みたがるのか?」といった質問があり、普段とは少し違った視点からの、刺激的な意見交換となりました。

一方、UTMからは、マレーシアの都市計画システムと、Fraser's Hillという町の観光調査についての2つの発表がありました。マレーシアの都市計画について勉強する良い機会になったと同時に、10月の研究室旅行inマレーシアへの期待がますます膨みました。



Ho先生から記念楯を受け取る窪田先生



浅草P 観音うらまちあるきマップ完成

空間研M1 佐藤 亮洋



展示の様子と、配布した「散歩地図」

観音うらでは、6月28、29日にお富士様の植木市(二の富士)が開催されました。

今回は新メンバー2名(空間研M1)も参加し、一の富士(5月31日、6月1日)と続けて、まちづくりパネルの展示、アンケートを行いました。二の富士では、一の富士の反省を踏まえて、パネル、アンケートともに大幅な更新を行いました。新たに散歩地図(まちあるきマップ)をつくっていたこともあり、直前までバタバタと格闘し続けましたが、無事に発表にこぎつけることができました。

地元の方といっしょに親睦を深めながら、地元民にとっての観音うら、観光客から見た観音うらに関して生の声を伺うことができました。時に励ましの言葉を、時に厳しい意見をいただきながら、続けていくことの大切さをしみじみと感じました。努力の結晶・散歩地図はたくさんの人に見ていただくことができたので、今度まちなかで見ている人がいたらと思います。



リーブス先生最終特別講義

-先端研お披露目パーティ-

D3 中島 伸

梅雨の晴れ間、6月24日に客員教授で来られているチェスターリーブス先生の最終講義がありました。会場は、駒場キャンパスの先端科学技術研究センターで、こちらに新たに開設された研究室のお披露目も兼ねて行われました。

リーブス先生の講義に先駆けて、まずは遠藤薫先生の講義「団地とその再生を巡って+都市再開発の最近の話題」があり、先生が関わってこられた公団住宅についてのものでこれまでの公団の歴史から最近のトピックまで大変興味深いものでした。熱の籠った遠藤先生の講義の後、リーブス先生の最終講義のタイトルは“Observations on the Changing Japanese Cultural Landscape 1992-2008”で、先生のこれまでの長年にわたる日本での調査活動より、日本の文化的景観について考察されたものでした。



先生の講義はいつも印象的な写真をスライドで次々と提示し、これを先生ならではの視点でコメントして繋いでゆき、聞かざるをきくと惹き込んでいきます。この日も、日本の文化的景観を様々な角度から指摘していき、欧米と日本の景観の違い、日本の特徴について講義してくださいました。

講義後は和やかなムードの中、リーブス先生お別れパーティーが開かれ、研究室から先生に寄せ書きが贈られました。

リーブス先生、2年間ご指導どうもありがとうございました！



2008年度第5回研究室会議

text_kakibaya

144教室で6月26日に行われた研究室会議では、M1・7名の初めての研究計画発表が行われました。題目は以下の通りです。

- M1 菊地原 徹郎:「地方都市中心市街地における角地利用の役割に関する研究—山梨県甲府市におけるケーススタディーを通じて—(仮)」
- M1 竹本 千里:テーマ1「伝建地区や歴史的街並み地区での建造物所有の手法(歴史的建造物を「売らない」ための手法)」テーマ2「伝建地区周辺地域の景観保全について」
- M1 土信田 浩之:「伝統的建造物群保存地区における創造的保存手法に関する研究(仮)」
- M1 中島 和也:「都市設計に関する研究(仮)」
- M1 西川 亮:テーマ1「広域遺産の保全のあり方に関する研究(仮)」テーマ2「外国人観光客誘致のためのまちづくりに関する研究(仮)」
- M1 藤井 高広:「出雲市大社町の都市構造に関する研究」
- M1 六田 康祐:「東京都におけるオープンスペースの連携についての研究(仮)」



力作模型披露 高山P現地調査

M1 竹本 千里

6月27~30日の日程で高山まで行って参りました。今回は今までの調査の中間発表ということでした。越中街道にお住まいのみなさんに、現在の町並みを実感していただこうと、模型を持参。なんと全長6m! 分割して運びました。あまりの大きさに新幹線では変な目で見られ、高山市の方々には、口々に「よく持って来たね〜」と労っていただきました。



現地調査ついでに、小高山と称される古川にも行ったのですが、またまた高山とは違う雰囲気。古川、高山ともに、歴史的な街並をもち、屋台のお祭りがある、川沿いの町。駅二つしか離れていないのに…と不思議な気分でした。



戸谷英世氏を迎えての勉強会

M1 西川 亮

去る7月4日、NPO法人住宅生産性研究会の理事長を務めていらっしゃる戸谷英世さんを迎えて勉強会が行われました。

主なテーマは計画公権と総合設計制度。公共性を持つ私的な土地においては、都市空間の社会利用には時間軸を加えた4次元、すなわち歴史と文化など、その土地の持つアイデンティティを活かすことが大切であることを教わりました。また、事前に配布されていた、渋谷鷺谷町計画に対する意見書の作成などを行ってきた戸谷さんのお話から、総合設計制度の運用面での問題や課題が明らかになりました。都市計画法や建築基準法をしっかりと学ばなければならぬことを痛感した2時間でした。

都市デザイン研究室 7月の予定

- 7月10~13日 鞆プロジェクト現地調査
- 7月18日 第6回研究室会議
- 7月20日 足助プロジェクト中間発表
- 7月24日 第7回研究室会議

編集後記

text_kakibaya

すっかり”キャラクターもの好き”が定着している気がする私です。榎だけにエノキダケ〜トー お気づきの方も多いと思いますが、4月から毎月、色を変えたり(今号のテーマ色は地球カラーです)飾りをつけたり、編集員各々が自由に気ままに(?)紙面作りに励んでいます。そのあたりもお楽しみください。ご意見ご感想はmagazine@ud.t.u-tokyo.ac.jpまたは直接編集員まで、どうぞ。

